

ふるさとに残された貴重な自然を後世に！

平成30年地域政策研究センター 地域協働研究【ステージⅡ】 採択課題

課題名：木賊川遊水地における希少生物緊急保全対策と河川環境再生の実施

研究代表者：総合政策学部 准教授 辻 盛生

課題提案者：たきざわ環境パートナー会議 豊島正幸

研究メンバー：渋谷晃太郎、島田直明、鈴木正貴（総合政策学部）

技術キーワード：市民参加 希少野生生物保護 自然環境保全 環境教育

▼研究の概要（背景・目標）

木賊川遊水地造成予定地は盛岡市近郊に位置し、多くの希少野生動植物の生息が確認されている。遊水地造成事業は長期にわたり、残された自然の保全に向け、多角的な対応が求められる。さらに、分水路によるエコロジカルネットワークの再生によるエコアップの可能性を模索する。



外来種駆除作業



埋土種子発芽実験



魚類採捕調査



分水路流路多様化



木賊川遊水地造成予定地



ビオトープ創出

▼研究の内容（方法・経過）

1. 遊水地造成予定地の希少動植物の保全
2. 木賊川、巢子川流域の水生生物の保全
3. 上記保全を目的とした際の課題の抽出
4. 保全のための科学的知見の集積に基づいた事業実施に際しての保全提案
5. 市民との協働による環境整備や希少植物の移植、外来植物の駆除作業の実施

▼研究の成果（結論・考察）

1. 多くの希少野生動植物が確認され、中には特筆すべき種も含まれた。
2. 長期にわたる事業の中で、失われつつある植物種の再生や移植による定着を確認。
3. 市民との協働による保全活動は有効であり、保全地の造成や移植、外来種の駆除などにおいて貢献した。

▼おわりに（まとめ・今後の展開）

1. 木賊川遊水地造成予定地は、住宅地に近い立地にもかかわらず多くの希少動植物が残る貴重な自然である。
2. 上記希少動植物の多くは、遊水地造成や流路の分断、凍結防止剤の影響等により、失われる恐れがある。
3. 身近で貴重な自然として保全活動を継続すると共に、環境教育の場として生かすべき。

※調査実施に際し、本城正憲氏、北本尚子氏、渡辺修二氏、新井隆介氏にご指導・ご助言をいただいた。